

令和5年度 第1回 藤沢市立湘南台中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2023年5月30日（火）14時30～16時

場 所 湘南台中学校 第1会議室

○出席委員

川口 昇 地域協力者会議 会長
山田 大介 多摩大学 教授
伊藤 秀樹 湘南台高校 校長
伊藤 雅浩 湘南台市民センター長
西川 典利 日本語支援団体 代表（地区生活環境協議会）
松原 保 湘南台中学校 校長
荒川 洋 湘南台中学校 教頭
森 満 弘 湘南台中学校 総括教諭（1年学年主任）
伊藤 義正 保護者 PTA 会長
片岡 あゆみ 保護者 PTA 会計
加藤 なつみ 保護者 PTA 会計

出席委員：11名

事務局：荒川 洋（湘南台中学校教頭）

その他出席者：

津田 淳人 湘南台中学校 3年学年主任
市丸 祐介 湘南台中学校 2年学年主任
押野 大地 湘南台中学校 7組

傍聴人数：0名

オブザーバー：吉田 功 教育総務課

次第

*学校の様子を参観

- 1 開会
- 2 委嘱状等の交付
- 3 自己紹介
- 4 会長ならびに副会長の選出
- 5 議題
 - (1) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）について（学校長）
 - (2) 令和5年度湘南台中学校概要について（教頭）
 - (3) 令和5年度湘南台中学校運営方針について（学校長）
 - (4) その他
6. 閉会

協議内容

4. (1) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）について

(副会長)

- ・20年前くらいに国で同じような制度が始まったときに、湘南台中学校は、モデルケースを行っていた。
- ・その時、学校のコーディネーターが地域と学校をつなげ、地域密着で行っていた。
- ・「社会総がかりで子どもを育てる」というキャッチフレーズで行い、このフレーズは大変気に入っていた。
- ・この地区は、非常に熱量がある。様々な会議も開催されていて、裏を返せばそれだけ地域を大切にしている。
- ・学校の運営課題に対して、委員の皆様が当事者でいてほしい。
- ・熟議を重ねていくことで、子どもたちのこれからを支えてくれる。
- ・学校にいと中ではなく、外からの気づきをたくさんいただけると助かる。

【質疑・応答・感想】

(会長)

- ・湘南台の地域は、みんなで作ったと言う意識がある。例えば、校歌などもその一つ。地域の力がものすごくある地域だと思う。

(2) 令和5年度湘南台中学校概要について

(委員)

- ・学校の教育目標の説明。鍛練・感謝・意欲の教育目標で、生徒を育てている。
- ・学校教育目標から、育てたい生徒像につながり、各学年の目標につながっていく。
- ・昨年度の1年生は、地域の力を借りて、総合的な学習の時間で発表まで行った。
- ・職員構成は、今年半分くらいの先生が入れ替わった。
- ・若手の先生も多くパワーがある。
- ・16クラス中、13クラスが、6年目以内の先生が担任を持っている。
- ・湘中ルームを開設して2、3年たつが、様々な生徒が利用している。
- ・今後ますます、居場所作りが大切になってくる。
- ・部活動も盛んに行っているが、野球部は人数が少ない。1番多い部活は、演劇部である。
- ・部活動も、地域移行ということが迫ってきている。地域の力を借りて、運動部、文化部とも充実できたらよい。

(3) 令和5年度湘南台中学校運営方針について (学校長)

(副会長)

- ・「すべての生徒が生き生きとしている居心地のよい学校」をめざしていく。
- ・重視する取り組みは、特に、今年度は、家庭地域との連携、主体的活動・自治的活動、主体的に取り組む態度の育成に取り組んでいく。
- ・その中で、1番はめざす生徒の姿（人間力の育成）は、職員全体で常に意識をしていく。
- ・その他、コミュニケーションが重要。子どもと職員、子どもと子ども、子ども

職員と地域などお互い良好な関係を築いていくべき。

【質疑・応答・感想】

(委員)

- ・最近、社会から外れている人が凶悪な事件を犯している。社会と関わり生きていかないといけない。

(会長)

- ・学校教育目標は、毎年変えていくのか。

(副会長)

- ・昨年度着任して、1年間過ごしてみて加えたこともある。特に、アンダーラインをしたところが重点である。

*学年主任が入り各学年の現状を報告

(3年)

- ・1、2年過ごしてきて、コロナ禍でもあったが、この最後の1年間は、今までよりもできることが多くなり、自分たちで考えて決めてやっていく。そして、最後はみんなが笑顔になることが目標。

(2年)

- ・今年度は「人と関わり、コミュニケーションがとれる生徒」を目標にしている。

(1年)

- ・基礎基本を身につけている。総合では、地域と関係を築きやっていきたい。

(7組)

- ・生徒数21名は、市内で1番多い学校。1年生にパワーがある。自立を目標にしながら取り組んでいる。

【質疑・応答・感想】

(委員)

- ・地域を学校が知ろうとすることは、地域の方々にとってはモチベーションになっている。是非、子どもたちに伝えてほしい。

(4) 参考資料

(副会長)

- ・学校として、この協議で取り扱っていただきたいことを示した。

◆学校が抱える課題・現状

1 教員不足による正規教職員の負担が増大している

- ・今年度は、昨年度に比べると人が入れ替わり少し改善した。

2 教室に入れない生徒（不登校）の居場所として『湘中ルーム』を開設して対応しているが、別室での学習支援や見守りに対応する十分な職員体制がとれない状況にある

- ・湘中ルームに通うことも難しい生徒のひきこもり状態を解消する手立てが必要地域に居場所
が作れないか？
- ・湘中ルームに専任がいるといい
- ・一人も取りこぼさない子どもたちにどのような支援ができるか。

3 外国につながる家庭が一定数あり、当該生徒（保護者）に対する日本語支援・学習支援を要
する状況がある

- ・国際理解、多文化共生社会にかかる意識醸成が必要
- ・日本語の会話ができるが、もう少し学習面等で手厚い指導が必要

4 部活動の地域移行に伴い、受け皿となる実施主体（団体）の確保

- ・地域内にクラブ等の設置がない種目の運動部と文化部（吹奏楽、演劇）

5 コロナ禍での活動制限による体験活動・地域活動等の不足

- ・学びの機会（体験的活動）の創出

6 学校に対する信頼の醸成

- ・開かれた学校（学校の公開：学校に入ってもらおう・学校が出て行く）

（委員）

- ・学校の困りごとを聞いて、一部支援できる可能性がある。
- ・この資料の提供をお願いしたい・

（事務局）

- ・承知した。

（委員）

- ・プリントの配布は大切なことに思う。
- ・また、メールでPDFの配信も検討したい。

以 上